

日本植調協会に期待する

日本植物調節剤研究協会が発足して6回目の新年を迎えたが、発足当初は“供試手順が複雑化し経費が余計にかゝる”とか“既存の協会で充分こなせる筈だ。屋上屋ではないか”等々前途多難を想わせるようないろいろの風評を聞いた。しかし、日本植調協会内外関係者の理解と一途の努力によって、着実に軌道に乗りはじめた感が深い。独自の研究設備も創った。より広い範囲の協力も得て、全国規模の研究普及の方向も打ち出させるようになった。これ等は、並大抵のことではない。

70年代の農業は、従来の官製くさい農業からの脱皮が要請されている。それが、具体的にどんな経過を辿ってどんな姿になるかは、門外漢にはわからない。しかし、その基盤をなす農業技術は、急速に対応する態勢がとられることは疑いない。したがって、日本植調協会の環境はますます多事多難になってゆくであろう。その背景の中で、果すべき役割はどうか。その役割を具体的に且つ分相応に設定して、広く関係官・農業界の理解と協力とを得られるよう慎重に取り運ぶべきであろう。例えば、官民それぞれの試験研究の間に立って、変化する農業技術の消化や積極的な研究刺激について何等かのお手伝いをするということも、当然の役割であろう。多様化する役割を十分に果し、その存在意義を高からしめるためには、当協会の中味をもっと充実せしめる必要がある。それには、何よりも大方の理解を一層深めるよう、日本植調協会はなお一層の努力をして貰いたいと思う。

石原産業株式会社 代 谷 治 郎

目 次

新年のことば

東京大学名誉教授

戸 莉 義 次……………2

年 頭 の 辞

農林省農林水産技術会議事務局

仮 谷 桂……………2

新 年 の 挨拶

農薬工業会会長

西 圭 一……………3

昭和44年度水稻作関係除草剤

試験成績概要

(財)日本植物調節剤研究協会……………4

新登録除草剤一覧

農林省農政局植物防疫課……………19

新除草・調節剤

NH-8902粒剤……………21

NH-6967S除草剤……………22

ACN除草剤……………22

G-315除草剤……………23